

尊靈御菩提御書

建治元年十一月 五四歳

尊靈の御菩提疑ひ無き者か。「時に適^{かな}ふのみ」等の積は此の意か。大田殿・次郎入道殿の御事は観心の法門の時申すべし。大田殿御所^{しよろう}勞の事、之を歎くと雖もはた又^將輕重